

令和3年度 事業報告

1. 法人名 社会福祉法人 志々満保育園

2. 定員 及び 入所状況 (定員) 90名
(年齢別 年間入所児童推移表)

		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計	前年実績	対前年	
4月	標準	4	14	18	13	16	13	78	91	93	▲2
	短時間	1	4	1	3	1	3	13			
5月	標準	5	14	18	12	16	13	78	92	93	▲1
	短時間	1	4	1	4	1	3	14			
6月	標準	5	14	18	12	16	12	77	92	93	▲1
	短時間	1	4	1	4	1	4	15			
7月	標準	5	14	17	11	16	12	75	92	94	▲2
	短時間	1	4	2	5	1	4	17			
8月	標準	5	14	17	11	16	12	75	92	94	▲2
	短時間	1	4	2	5	1	4	17			
9月	標準	5	14	17	10	16	13	75	92	93	▲1
	短時間	1	4	2	6	1	3	17			
10月	標準	5	14	17	10	16	13	75	92	93	▲1
	短時間	1	4	2	6	1	3	17			
11月	標準	5	14	16	10	16	13	74	92	94	▲2
	短時間	1	4	3	6	1	3	18			
12月	標準	5	14	14	10	16	14	73	92	96	▲4
	短時間	1	4	5	6	1	2	19			
1月	標準	5	13	13	10	16	14	71	91	96	▲5
	短時間	1	4	6	6	1	2	20			
2月	標準	5	13	14	10	15	14	71	91	96	▲5
	短時間	1	4	5	6	2	2	20			
3月	標準	5	13	14	10	15	14	71	90	95	▲5
	短時間	1	4	4	6	2	2	19			
合計	標準	59	165	193	129	190	157	893	1099	1130	▲31
	短時間	12	48	34	63	14	35	206			
		71	213	227	192	204	192				
前年実績		121	212	209	204	192	192	1130			
対前年		-50	1	18	-12	12	0	-31			
平均在籍数/月		10.08	17.67	17.42	17.00	16.00	16.00	94.17			

3. 法人経営 及び 財務管理

地域の少子化による保育需要の減少とともに、要支援児を配慮した職員配置のため、入所児童数、特に0歳児の入所を抑えた。これにより2月から2ヶ月分の処遇改善特例事業による加算増があったものの、委託費合計では減収となった。しかし、コロナ禍に対応した補助事業への積極的取り組みや、加算制度への効率的な職員配置の工夫、有効な物品維持管理で購入を抑える等の努力により、施設設備整備積立金は、長中期計画の年間500万円を達成することができた。更に次年度へ繰越しとなった処遇改善手当分として、200万円の人件費積立預金を積み立てた。

新型コロナの終息が不透明な中、社会はウィズコロナへ転換することを見越し、今後の保育環境の在り方を検討、対策する事が今後の課題となる。補助事業の活用や処遇改善Ⅲとも言われる新たな改善加算等、事務業務が益々圧迫される等、経営課題は山積しているが、引き続き経営体力を蓄え、適切かつ安定した法人運営に取り組んでいきたい。

4. 職員配置 及び 労務管理

(令和3年11月1日現在職員配置表)

区分	基準 定数	職員現員数					備考 ※嘱託医2人は職員数に含まない
		常勤職員(人)		非常勤職員		合計	
		正職員	臨時等	(人)	常勤換算	(人)	
施設長	1	0	1	0		1	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 <input type="checkbox"/> 兼任
保育士	12	12	5	3	3.31	19.3	正規の内1名育児休暇 正規の内1名短時間(6/8)勤務
看護師		0	1	0		1.0	うち准看護師 1人
調理員	2	1	1	2	1.06	3.1	
事務員等	1	1	0	2	0.8	1.5	
支援保育士		0	0	5	2.0	2.0	育休(山川)除く

要支援児を配慮した加配に加え看護師の対応もあり、また保護者に育休中が多いこと等から例年よりも園児保育時間が短い傾向にあり、余裕ある保育体制となった。しかし、12月末の看護師退職、正規保育士1名の短時間勤務が継続見通しである事による夕刻職員減員、育休保護者の勤務復帰による保育の長時間化等、今後への課題は明確である。保育士人材不足による年度途中採用困難が続いていることもあり、令和4年新卒保育士を求人したが応募が無く、今後の職員採用動向が課題として残った。

5. 施設運営 及び 保育全般

① 地域と共存した的確な保育サービスの提供

- ・保護者を子育ての中心とした働きかけや、家庭と集団が支えあう子育てをめざし、情報発信を大切にしたい。保護者支援アプリ CODMON が定着・浸透したため、より適切な運用の在り方を検討して更なる活用を図りたい。
- ・感染防止の観点から、小学校を初めとする地域連携が困難を極めた。フォーリンク等これまで培った繋がりを活かしつつ、新たなあり方の模索が今後の課題となる。

② 子育て支援

- ・支援センターでは、施設消毒等感染防止対応や人数・時間制限など、利用者を受入れ対策に苦慮した。世代交流等地域に根差した活動は引き続き困難を極めたが、動画発信等の新たな発信の試行に努めた。ウィズコロナへの社会変化に対応する工夫が求められる分野であり、全職員で取り組みへ向けた前向きな検討をしたい。

6. 職員資質の向上

職員評価制度は定着し、個別面談等で個々を受け止めて評価することに注力した。

キャリアアップ研修も順調に進み、他研修もリモートを活かし参加に努めた。

- ・職員の情報共有や研鑽意識向上を働きかけたが、文書での伝達把握の弱さが貴重な一斉職員会の時間不足を生んでおり、この改善が今後の大きな課題となった。
- ・個人目標を明確にし、組織向上への役割意識や貢献意欲へ繋ぐことを意識した。

7. 施設整備

- ・相互再検による日常的な点検管理体制は確立したが、要改善事項が増加する中、改善・修繕までの応急対応など、全員での維持管理の向上へ繋げたい。

8. 安全・衛生・危機管理

感染症による休園対応事象も無く、対策成果と共に保護者の努力と協力を心強く感じられた。防災・防犯についても、計画を見直しつつ適切な訓練が実践出来た。更に、有事に判断して対応できる意識やスキルの向上等、更なる人的環境の向上に努めたい。